

武蔵野市の将来像（環境像）について

～ 私たちがつくる 快適でスマートなまち むさしの ～ 自然の営みを活かした心豊かな生活をめざして

昨今、全地球規模における環境の様相は、温室効果ガスによる地球温暖化や気象変動、エネルギー資源の枯渇、環境汚染、自然環境破壊など日々変化しています。

これらの変化は、異常気象やゲリラ豪雨、PM2.5 や光化学スモッグによる大気汚染等として私たちの日々の生活に現れていますが、その規模故に、本来密接に関連していることを忘れてしまいがちです。

そのような中、東日本大震災とそれに伴う原発事故は、国全体としてのエネルギー問題を大きく顕在化させ、これを契機に、私たちの日々の生活においてもエネルギー需給構造等環境に対する考え方も変化し、省エネルギー・省資源を志向するライフスタイルや社会活動へ移行が進んできています。

そして、本市のような成熟した既成市街地でエネルギー・資源の消費型都市においても、公共・民間施設における太陽光発電等の創エネや設備・機器の効率化等による省エネ、新武蔵野クリーンセンター（仮称）の稼働に合わせた面的なエネルギー融通等を進めています。また、身近な水の循環を意識した雨水浸透施設の整備や新たな環境啓発である「水の学校」の実施、ごみ減量に向けた全市的な取組等、市民の自発的・主体的な行動を促す取組も積極的に進めてきています。

これらのことを踏まえ、今期、策定する第四期環境基本計画では、「～私たちがつくる 快適でスマートなまち むさしの～ 自然の営みを活かした心豊かな生活をめざして」を将来像（環境像）に掲げました。

私たちが目指す『スマート』とは、生活をする上で切っても切れない関係である「エネルギー」・「資源」の効率化を図り、「ごみ」を循環させ、「緑」・「水」を効果的にネットワークするなど、これらの環境形成要素をうまく・賢く連携させることにより、人から動・植物に至るまで、本市で暮らす様々な主体が暮らしやすいスマートなまちに再編していくということです。

また『スマート』は、従来の環境への配慮のために自分が我慢する、負担を感じるという受け身的な考え方から脱却し、市民・市民団体・事業者・行政等の各主体が、環境への配慮を自らの問題として捉えて自発的に行動するための、新しい考え方への転換の視点でもあります。

この将来像の実現に向け、計画期間内に重点的に取り組むべき3つの項目を設定し、本市ならではの自治との連携によりまちづくりを進めてきた経緯を踏まえながら、人と人とのつながりや世代間での意識の共有を図り、「快適でスマートなまち むさしの」を目指します。